

CAMPUS

キャンパストピックス

TOPICS



学長表彰、学生部長表彰、 神谷奨励賞の表彰式を 挙行



学長表彰



学生部長表彰



神谷奨励賞

3月15日、長久手キャンパスにおいて、平成22年度の学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の表彰式を行いました。

学長表彰は、毎年優れた学業成績、研究成果、課外活動等において顕著な成績を修めた個人や団体を対象とするもので、今年度は個人1人と1団体を表彰しました。

学生部長表彰は、中部、関西、東海地区大会等で上位入賞の成績をおさめた者、社会奉仕活動等で顕著な活動を行ったものを対象とし、今年度は個人15人と2団体を表彰しました。

神谷奨励賞は、各学科専攻に在籍する3年生を対象として、優れた学習研究の成果をあげ、学部長の推薦を受けた学生に贈る賞で、16人の学生が受賞しました。

それぞれの分野で精一杯の努力が認められた受賞者の皆さんのますますの活躍を期待しています。



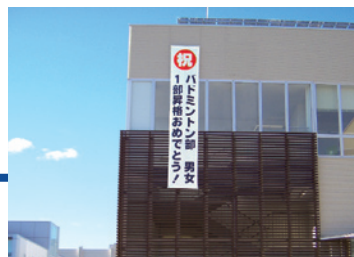
学長表彰		
特に優れた研究成果	心理学研究科心理学専攻 蔵富恵さん	平成23年度独立行政法人日本学術振興会特別研究員DC-1に採用された(次ページ記事参照)
顕著な課外活動	バドミントン部	平成22年度春季東海リーグ戦で男子が1部昇格を果たし、男女ともに1部リーグを達成した(次ページ記事参照)

学生部長表彰		
中部、関西、東海地区 上位入賞同等以上	ビジネス学部ビジネス学科3年 永田知里さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスの部準優勝、第50回西日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部ベスト32、第61回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部出場
	健康医療科学部スポーツ・健康医学科1年 成田菜以さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスの部準優勝、第50回西日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部ベスト32、第61回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスの部出場
	文学部国文学科4年 河村説子さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスの部ベスト8
	医療福祉学部医療貢献学科言語聴覚専攻3年 岡岡みなみさん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスの部ベスト8
	ビジネス学部ビジネス学科1年 江崎祥代さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会女子シングルの部3位
	コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科4年 成田純也さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスの部準優勝
	ビジネス学部ビジネス学科3年 島岡亮治さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスの部準優勝
	コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科3年 平井雅人さん	<バドミントン部>第58回東海学生バドミントン選手権大会男子シングルの部ベスト8
その他	健康医療科学部スポーツ・健康医学科1年 後藤瑛里さん	<女子硬式テニス部>第60回東海学生新進テニス選手権大会シングルス準優勝(これにより関東学生新進テニス選手権大会出場決定)、東海学生選抜室内テニス選手権大会シングルスベスト16(東海女子ランク10位)
	文学部教育学科4年 堀住綾乃さん	中部学院大学主催第19回中部手話スピーチコンテスト優秀賞受賞。障がいのある当事者として、障がい学生支援活動団体「あすてく」の組織化にも貢献した
	コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科2年 坂田知枝美さん	HSK試験で最上級である6級合格。内閣府主催の第31回日本・中国青年親善交流事業(日本青年中国派遣団)に参加し、中国各地の視察、ボランティア活動も積極的に行った
	ビジネス学部ビジネス学科3年 竹内宏樹さん	社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)主催の第26回ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」で入選(3名以内)
	ビジネス学部ビジネス学科2年 杉崎里奈さん	(財)名古屋都市産業振興公社 名古屋市新事業支援センター主催「学生ビジネスアイデア」で特別賞を受賞
	ビジネス学部ビジネス学科2年 片山紗矢香さん	(財)名古屋都市産業振興公社 名古屋市新事業支援センター主催「学生ビジネスアイデア」で佳作を受賞
中部、関西、東海地区 上位入賞同等以上	ビジネス学部ビジネス学科2年 堀田梨乃さん	(財)名古屋都市産業振興公社 名古屋市新事業支援センター主催「学生ビジネスアイデア」で佳作を受賞
	チアリーディング部	チアリーディング中部選手権大会大学の部優勝、チアリーディング日本選手権大会(Japan Cup2010)準決勝進出、全日本学生チアリーディング選手権 予選78大学中4位・決勝41チーム中17位
	その他	ろう学校出身の聴覚障がいのある学生の入学を機に2007年発足。ノートイクやパソコンイクの活動を中心に、障がいのある学生への支援活動を精力的に行った

神谷奨励賞	
文学部	〈国文学科〉河路悠衣さん 〈英文学科〉鈴木志保美さん 〈図書館情報学科〉神尾菜都美さん 〈教育学科〉大沼英恵さん
現代社会学部現代社会学科	〈フィールドスタディコース〉梅村葉希さん 〈メディアプロデュースコース〉上田夕佳さん 〈環境デザインコース〉青山清香さん
コミュニケーション学部	〈コミュニケーション心理学科〉石原愛里さん 〈言語コミュニケーション学科〉村瀬明子さん
ビジネス学部	〈ビジネス学科〉川村瑠子さん、佐藤美妃さん
文化創造学部文化創造学科	〈表現文化専攻〉岩間果穂さん 〈多元文化専攻〉田中愛美さん
医療福祉学部	〈福祉貢献学科〉鬼頭里佳さん 〈医療貢献学科言語聴覚専攻〉徳井和斗さん 〈医療貢献学科視覚科学専攻〉久嶋亜衣さん

※学年は22年度のものです

長久手キャンパス11号棟に、バドミントン部の活躍を記念して下げられた懸垂幕



バドミントン部が 東海学生リーグ1部に 昇格

バドミントン部のますますの活躍を期待しています。



受賞の挨拶をする
代表の松田さん

バドミントン部が創部30周年を迎え、男女共学（平成7年）と共

にできた男子チームが、昨年度の春季東海リーグ戦（30校加盟において、念願の1部リーグ（4校）に昇格し、男女ともに1部という快挙を成し遂げました。

加盟大学のうち、男女ともに1部リーグの大学は4校（愛知淑徳大学、静岡大学、中京大学、東海学院大学）で、強豪揃いの東海学生リーグでの1部リーグ昇格は大変評価することができます。また昇格後の秋季東海リーグ戦においても1部残留を果たしました。

バドミントン部代表の松田宏和さんは、「今後も1部を維持できるように練習を積み重ね、今年度は全日本学生選手権団体戦出場を目指したい」と熱く抱負を語ってくれました。

CAMPUS キャンパストピックス TOPICS



心理学研究科修了生の 蔵富さんが 日本学術振興会特別研 究員に採用



学長表彰を受ける蔵富さん

この春、心理学研究科心理学専攻博士前期課程を修了した蔵富

恵さんが、平成23年度から3年間、日本学術振興会特別研究員（DC1）に採用されました。特別研究員は日本の学術振興の将来を担う創造性に富んだ研究者を育成するための制度で、全国の大学院生2961人から見事難関を突破して採用されました。

蔵富さんの「視覚情報の制御に関する認知神経心理学的検討」という研究テーマは、視覚情報において、状況の変化に応じて優先的に情報を取り入れるための制御メカニズム（認知的制御）を明らかにしようとするものです。近年では、この機能が前頭葉によって行われている可能性が示され、認知症研究や統合失調症研究に役立てることができると大変注目されています。「今後は、研究を通して国内だけではなく海外でも活躍できるように頑張っていきたい」と語ってくれました。

第65回 高等学校 入学式を実施



今年は春になっても気温の低い日が続きました。高校入学式当日は雲一つない、淑徳晴れで、新1年生の入学を待っていたかのように、校門前の坂道の桜の花が美しく

咲きました。東日本大震災が起これ、日本中が大きな悲しみに包まれています。だからこそ例年と同じように入学式を迎えられたことのありがたさをおぼえながらの開式となりました。

中学校3年間とほぼ同じメンバーで迎えることになる高校生活ですが、すでに3月に行われた進学説明会で中学と高校の違いや高

校生としての心構えを聞き、それぞれが思いを新たにしている。記念講堂での入学式に臨みました。

校歌斉唱のあと、校長式辞では「未曾有の大災害が起こった今年に進学する皆さんは、日常生活

平成22年度 中学校卒業式を 挙行



中高完全一貫体制になって3回目の中学卒業式が3月17日、大アリーナで行われました。

新校舎の完成と同時に7クラス体制で始まった中高完全一貫体制も順調に5年間が経過しました。

一昨年から高校募集はなくなり、ほぼ同じメンバーで高等学校に進

学することになりますが、9年間の義務教育を終える区切りの意味もあり、1、2年生や父母、教職員が見守る中、今年も厳粛に卒業式が行われました。

中学校の3年間は人生の中でも心身ともに特に変化の著しい時期でもあります。今年の3年生の「卒

業のことば」は「まことに三年は長きやうなり侍りしが、小車のごとく巡る月日は短く侍りて…」と文語調でまとめられ、「成果を上げるに、努力の欠くべからざりしを心に刻めること重なりぬ。ゆえに」の理想にして「の難路なる文武両道を自ら選び来し淑徳中学校の日々に悔いはなく候ふ。かかること、前途遠達にして行路険難なる我らの行く道にかけがえのなき糧とこそなるべく候へ」と語られました。

一人ひとりがこれまでの3年間の振り返り、これからの高校生活がより実りあるものになるよう、心新たにすよい機会に出来たことと思います。高等学校においても充実した学校生活を送り、さらに成長していくてほしいと願っています。

の大切さをおぼえられていることと思います。今自分ができることは何かを考え、精一杯取り組むことが大切です。活力ある笑顔を持ち続けてください」と話されました。

理事長は「10年先20年先に役立つ人材になれるよう、将来を見据え高く理想を掲げ、夢を持ち、高校生活を送ってほしい」と祝辞を述べられました。

式のと、学年主任から入学後すぐに行われる「思索と対話の春合宿」の説明があり、「やらなくて後悔するより、一生懸命やって、その結果を受け止める大切さ」が話されました。

今年度で高校3学年全てが中高一貫生となりました。慣れ親しんだ校舎での高校生活ではありますが、変えなければならぬこと、変えてはいけないことを各々が考え、3年間で実り多きものとなるよう願っています。



出演者紹介。
右端が石丸先生

石丸ゼミ製作の まちおこしドラマ 「みつけもの」が完成、公開

現代社会学部メディアプロデュースコースの石丸ゼミと岐阜県恵那市岩村町の町づくり団体「城下町ホッ」といむららが、昨年共同で製作していたドラマ「みつけもの」が3月初旬完成し、4月23日、長久手キャンパスミニシアターで上映会を開催しました。

当日は一般客も含めて約120人が来場。ゼミ生の有志が受付や案内係を務め、岩村町の市民団体や学外の協力者の紹介の後、70分の本編上映と続きました。

時代に翻弄されながらも強く賢

く生きた岩村城の女城主をドラマ化した作品に、上映後のアンケートでは、「岩村に行ってみたくなった」「私も主人公のように新しい道に向かってみようと思う」「など前向きな意見が多く、作品のメッセージをしっかりと受け取ってもらえたことを嬉しく思いました。

上映後、学生たちは「町の人たちの町づくりへの想いを製作を通して知ることができた」「ゼロからの出発でも、みんなの協力と熱意があれば作品が完成することに感動した」と振り返っていました。



中日短歌大賞の授賞式と
あいさつする島田先生



島田先生が 歌集「蓬歳断想録」で 第1回中日短歌大賞、 第45回遼空賞を受賞

新学長の島田修三先生が、第15回若山牧水賞に引き続いて、歌集『蓬歳断想録』（短歌研究社刊）によって第1回中日短歌大賞、さらに

短歌界では最も権威があるとされる遼空賞（第45回）を受賞されました。

中日短歌大賞は東海地域の歌人によって組織された中部日本歌人会と中日新聞社が、東海地域在住の歌人がこの1年間に出版された歌集中、最も優れたものと評価した歌集に対して贈る文学賞です。

中日短歌大賞は、昨年度までは歌人浅野梨郷を記念する浅野梨郷賞として中部日本歌人会員の歌集だけを対象にしていた。しかし、本年度より広い範囲の歌集を対象とすることになり、全国的な

意味で評価できる歌集に贈る文学賞となりました。その第1回の受賞歌集として島田先生の『蓬歳断想録』が選ばれたわけです。

『蓬歳断想録』は、島田先生の日々の思いを古典的な修辭、柔軟な用語、現代的な感覚などによって歌いとどめた一冊です。360首の収録作品の織りなす日々の心の起伏や陰影の世界は味わい深い随想集のようにも思えます。大学運営とはまったく異なる世界を深めて行かれる、もう一人の島田先生の姿が『蓬歳断想録』には鮮やかに窺われます。



現代社会学部 都市環境デザインコース 2010卒業研究展

2010年度4年生による「愛知淑徳大学都市環境デザインコース2010卒業研究展」を2月15〜19日、名古屋市民ギャラリー栄にて開催しました。

1月26〜28日に開催した学内展示より、この学外展示の選抜を行い、論文3編、椅子等制作3点、建築設計15点を展示しました。学内展のときよりもさらに作品の精度をあげて会場を構成し、当日は来訪してくださった学外の方へ直接プレゼンテーションする光景もありました。

学生たちは「自分は何に関心があり、どこまで追求できるのか」を問い、いかに形づくるのか、いかに執筆するのかというところに多くの時間を費やしてきましたが、卒業研究は、学生自身の4年間の学びの集大成というだけでなく、成果としてまとめたものをいかに社会一般へ発表するかということに大きな意義があります。今後とも、現代社会学部の出身者として、多様な価値観の中にある様々な反応を感じ取り、自らの創造の糧にして欲しいと思います。



教育学科の 音楽ゼミが1年の 成果を演奏会で



教育学科の音楽ゼミは、こどもの音楽的発達を学びながら音楽指導力を養成し、また生涯学習となる音楽にも取り組んでいます。ただ歌ったり弾いたりするのではなく、専門的な知識と技術を取り入れ、人と人とを繋ぐ感動できる音楽を考えています。決して高度な技術を目指しているというのではなく、それぞれの個性を生かした

企画・構成し、1年間の成果を年度末に名東文化小劇場で発表しています（2月19日）。

今回、I部ではソプラノ・アルトリコーダーにソプラノ・リコーダーを加えて、バロック時代の素朴な響きのリコーダー4重奏を試み、またトーンチャイム合奏の柔らかなハーモニ、女声合唱と多彩なプログラムになりました。

II部のミュージカルは歌、踊り、ピアノ、トランペット、スネアなどで音を構成し、各課題をこなしていくたびに、ゼミ生の表現力や協調性が増し、体力、気力にも成長が見られました。聴きに来て頂いたご両親、友人、先生方皆様に、大変喜んでいただきました。

ゼミ演奏会も2回目を終え、次のゼミ演奏会に向けてさらに理論的にも専門的知識を広げ、表現力豊かな感動を伝える演奏を目標としていきたいと考えています。

教育学科1期生が 子どものための ミュージカルを上演



文学部教育学科主催「子どものためのミュージカル」クララのお誕生日」を、2月20日に名古屋市中東文化小劇場で開催しました。

この催しは、教育学科の第一期生が4年間で培った総合的な表現力を発表する機会として企画したもので、小学校の学校行事の企

画・運営力を高めることを目標に、「総合表現」の授業を基に、学生が主体となって取り組みました。学生たちは、子どもたちが「仲間と楽しさもつらさも共有すること」「仲間とチャレンジすること」「自分を表現すること」を実感し、成長していく姿を描けるような脚本づくりに取り組みました。

当日は子どもと保護者合わせて約130人が来場。緊張の中、開幕しましたが、客席の子どもたちがキャストと一緒に踊ったり、言葉を掛け合ったりする場面では、会場に一体感が生まれました。舞台終了後には、達成感と安堵感から感激で涙を流す学生たちの姿がありました。一つの目標に向かって仲間と協力し、舞台を創り上げた経験を活かしてこれから社会人として歩んでほしいと願っています。